証券コード 6405

SUZUMO REPORT

第 63 期

2022年4月1日～2022年9月30日

Index

トップメッセージ ……P.01

特集：株主還元 取り組み状況 ……P.02

TOPICS ……P.05

財務ハイライト ……P.07

トップメッセージ

63期上期を振り返って

代表取締役社長
鈴木 美奈子

株主の皆様には、日頃より格別なご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

第63期の上半期は、売上高63億5,100万円、営業利益4億3,600万円、当期純利益3億7,900万円と前期比で増収減益となりました。

半導体や部材の供給不足による生産への影響は継続しておりますが、国内外での人手不足の逼迫感は一層高まり、外食や小売業の省人省力化や機械化ニーズは加速しております。半導体等の部品供給不足解消後、こうしたお客様のニーズに応えていくため、将来を見据えた体制作りや事業基盤の強化を図り、状況を見極めながら、成長を促進する価値ある投資を推進してまいります。

また、2022年5月に株主還元方針を「総還元性向30%以上」「中間配当の実施」と変更。6月には株式の売出し・分割、株主優待制度の導入を実施致しました。引き続き、株主の皆様への利益還元を経営上重要な施策として、適正な利益配分に努めてまいります。株主の皆様には、変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

特集

株主還元取り組み状況

取締役 専務執行役員
谷口 徹

個人投資家の皆様の参加を求めて株式の売出しを実施

前期の事業報告書の株主還元方針の変更でお示ししたコーポレートアクションの進捗状況をご報告させていただきます。6月に当社株式の売出しを行いました。筆頭株主であった創業家の鈴木節子様が保有する株式を資産管理会社に移すことに合わせ、広く株主の皆様や投資家の皆様に投資いただく機会を拡大しようという思いから、売出しを実施することと致しました。

大和証券とSBI証券の2社が引き受け会社になり、個人の投資家の皆様へ広く発信致しました。

多様な投資家の方に広く訴求することで認知を高めて株主層の拡大をはかる

「個人投資家を増やす」目的の一つは、株主層の拡大と多様化です。当社株式の出来高の低さが適正な株価形成の阻害要因になっており、広く投資家の参加者を募り、流動する株式を活性化させることが必要と考えていました。また、個人投資家の皆様がより投資しやすい環境にするために、株式の分割を実施。これらの施策と同時に導入した株主優待制度は、外食や中食産業を応援していただきたい、という思いを込め、優待品を「全国共通お食事券ジェフグルメカード」としました。

身近にあるSUZUMO製品を感じて多くの方をSUZUMOファンに

二つ目の目的は、SUZUMOのファンを増やすことです。当社は一般消費者の方々にとって身近な存在である「BtoBtoC」の機械メーカーであるという思いを持っています。飲食店やスーパーで宝探しのような感覚でSUZUMO製品がどこに隠れているかを意識してもらう事で、より一般消費者の皆様にも身近な存在になっていくと考えています。当社のファンが増えることは株価にも事業面にもプラスの影響をもたらすと考えています。実際にご飯盛付けロボットを操作したお客様から「衛生的だし、おいしい」という声が集まれば、事業者のお客様の機械導入のきっかけにもつながっていくと考えています。

最近の事例ですと、日本航空（JAL）様のビジネスクラスのラウンジに当社のご飯盛付けロボットを導入いただきました。オペレーション効率の向上はもちろん、ご飯を衛生的に、利用者に見える形で提供することでラウンジ利用者に大変好評だと、うれしい声を頂戴しています。また、海外の利用者にもクールジャパンの一つとしてとても印象深いようで、こんなシーンからも当社の機械は最終消費者の身近な存在であることをより伝えていければと思っています。

株主還元につながる株式の売出し・株式分割

株式の売出し・分割は、株式の流動性改善にも、そして事業面にもプラスになっていくと考えています。このことは、株主の皆様へのキャピタルゲイン、もしくは安定的な業績に支えられた配当、という形での還元につながっていくと思っております。株式の売出しは、当社が上場してから初めてのことであり、資本市場とより向き合っていくスタートであるという側面もあると思っています。実際にこれらの取り組みは、株主数の増加にも寄与しました。さらに流動性のボリュームが上がって来れば機関投資家の参入も見込め、会社成長のポテンシャルと相まって、株式市場の中で、適正な評価をいただけるようになると考えております。また、個人投資家の皆様との対話の機会を増やすなど、IRの発信においてさらに積極的な取り組みを展開してまいります。

市場の変化に対応した戦略でさらなる事業成長を目指す

Withコロナという社会・経済活動の流れの中で、事業面でも大きく変化を遂げてきています。特に顕著なのが海外市場で、日本食の広がりが急加速しています。コロナ禍以前にインバウンドで来日して日本食に触れた海外の方々が、帰国後に自国で味わう日本食に不満を感じているという話しをよく耳にします。人手不足という課題と相まって、おいしい日本食を提供するSUZUMOの機械が注目を浴びる今こそ、市場の変化を見極め、戦略を持った海外展開を速やかに進めてまいります。

空港の水際対策の緩和と円安メリットで、来日する外国人旅行者が増えるのは必至です。日本食のグローバルな広がりは、今後ますます拡大をしていきます。日本に来て、日本食を大いに楽しんでいただいた上で、自国に戻って行く。インバウンド・アウトバウンド需要の双方を見据え、大いに力を注いでまいりたいと考えています。

本社移転 ～中野新オフィスへ～

細分化する食のニーズを捉え 常に新しいフードビジネスの開拓を目指して

今後の成長に伴う組織や人員の拡充に備えるため、今回本社機能の移転を行いました。新本社ビルには、SUZUMOグループの一員である株式会社日本システムプロジェクトも同じフロアに移転。厨房の調理ロボットから受付・配膳・オーダーシステムまで、ワンストップなサービスを通じてお客様の抱える課題に、これまで以上に真摯に向き合ってまいります。本社機能移転はグループのソリューション力を高め、シナジーを生み出す経営戦略の一環です。さらなる進化を遂げるSUZUMOにご期待ください。

フードテックグランプリ2022

『食べる喜びや幸せを実現するケア家電「デリソフター」』をSUZUMO賞に選定

当社は、株式会社リバネスが主催するアクセラレーションプログラムである『フードテックグランプリ 2022』にパートナー企業として参画し、SUZUMO賞としてギフモ社の「デリソフター」を選定しました。ギフモ社の「デリソフター」は、できあがった料理を「やわらか食」へと変える調理家電。噛む力、飲み込む力が低下し食べることに問題を抱えている人々へ、家族と同じ料理を食べられる喜びと幸せを届けたいという理念と製品開発の思いが、当社のビジョン『食の「おいしい」や「温かい」を世界の人々へ』と通じるものを感じたのが選定理由です。食は人間が生きていくための原動力。刻んだり、ペースト状にした介護食は見た目が大きく異なる上にメニューが限定されている場合が多く、食事をする人と作る人双方の大きなストレスとなっています。超高齢化を迎える社会問題に同社は正面から向き合い、食が持つ喜びや幸せをつないでいこうとする姿勢に共感致しました。

News Pick Up

SUZUMOフェア in名古屋、 in大阪

企画本部　事業開発室　次長
荒井 良彦

2022年9月に、名古屋・大阪にてSUZUMOフェアを開催致しました。

初めての試みとして、現在開発中の事案をブースにて展示。事業開発室ではIoTという手段を活用することで、様々なデータを送受信できる環境を構築し、新しい価値を提供できるよう研究開発に取り組んでいます。例えば、機器の稼働データを取得し、蓄積したデータをAIで分析することで、炊飯量予測や適切な炊飯タイミングの指示など店舗運営への貢献ができないか、また、機器が故障する予兆を掴む“予知保全”を実現できないか、と日々活動しております。

両会場とも多くの方々にブースへお越しいただきました。今回は、研究開発中ということもあり、我々の取り組みやSUZUMOグループが目指す世界をお話しし、お客様のご意見や日々の業務の中でのお困りごとを伺いました。「そういうのができたら良いね!」「ウチの業態だと、そこまで必要ないかな」「実は今こんなことを考えていて…」「実際に店舗で実験してみない?」等々、机の上だけでは見えてこない、現場の課題を直接伺うことができる大変貴重な機会となりました。今回の機会で得たことを活かし、構想をカタチに変え、さらにお客様に喜んでいただけるSUZUMOグループを目指して取り組んでまいります。

Financial highlights

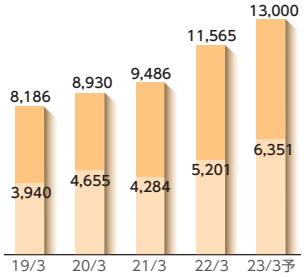
財務ハイライト

期末
中間

売上高（単位：百万円）

6,351 百万円

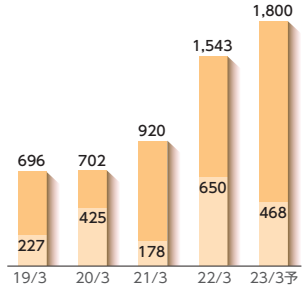
前期比 22.1%増



経常利益（単位：百万円）

468 百万円

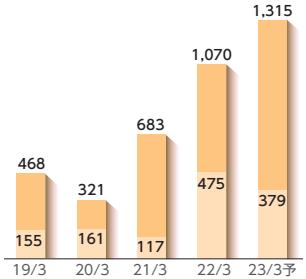
前期比 27.9%減



親会社株主に帰属する 当期純利益（単位：百万円）

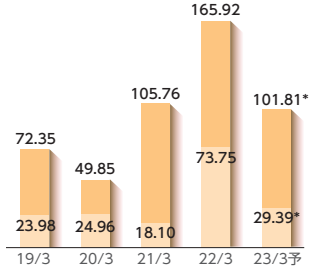
379 百万円

前期比 20.2%減



一株あたりの当期純利益（単位：円）

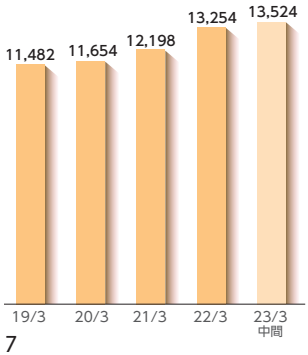
29.39 円



*当社は、2022年8月1日付で普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。1株当たり四半期純利益については、当連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定し算定しております。

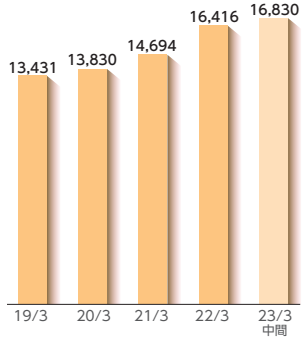
純資産（単位：百万円）

13,524 百万円



総資産（単位：百万円）

16,830 百万円



Overview of the consolidated financials statements

連結財務諸表（要約）

※記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結貸借対照表

（単位：百万円）

科目	前期 2022.3.31現在	当期第二四半期 2022.9.30現在
資産の部		
流動資産	12,085	12,219
現金及び預金	8,276	8,033
受取手形及び売掛金	1,287	1,360
電子記録債権	172	85
たな卸資産	2,199	2,503
その他	150	237
固定資産	4,330	4,611
資産合計	16,416	16,830
負債の部		
流動負債	1,775	1,904
固定負債	1,386	1,401
負債合計	3,161	3,306
純資産の部		
株主資本	13,205	13,355
その他の包括利益累計額	30	147
非支配株主持分	17	21
純資産合計	13,254	13,524
負債純資産合計	16,416	16,830

連結損益計算書

（単位：百万円）

科目	前期第二四半期 2021.4.1～2021.9.30	当期第二四半期 2022.4.1～2022.9.30
売上高	5,201	6,351
営業利益	634	436
経常利益	650	468
親会社株主に帰属する当期純利益	475	379

連結キャッシュ・フロー計算書

（単位：百万円）

科目	前期第二四半期 2021.4.1～2021.9.30	当期第二四半期 2022.4.1～2022.9.30
営業活動によるキャッシュ・フロー	829	94
投資活動によるキャッシュ・フロー	△38	△182
財務活動によるキャッシュ・フロー	△150	△303
現金及び現金同等物に係る換算差額	31	127
現金及び現金同等物の増減額（△は減少）	670	△264
現金及び現金同等物の期首残高	7,342	8,276
現金及び現金同等物の四半期末残高	8,013	8,033

会社概要 （2022年9月30日現在）

商　　号	鈴茂器工株式会社 （英文名：Suzumo Machinery Co., Ltd.）
設　　立	1961年1月13日
本　　社	東京都中野区中野4-10-1 中野セントラルパークイースト（〒164-0001） TEL.03-3993-1371(代)
資　本　金	11億54,418千円
事業内容	寿司ロボット、盛付けロボット等の米飯加工機械の製造・販売など
従業員数	470名（2022年9月末現在）
U　R　L	https://www.suzumo.co.jp/

取締役および監査役 （2022年9月30日現在）

地　位	氏　名	担当および重要な兼職の状況
代表取締役社長	鈴木　美奈子	
取締役専務執行役員	谷口　徹	
社外取締役	髙橋　正己	株式会社ロイヤルメディカルクラブ 代表取締役社長
社外取締役	髙橋　昭夫	バイオマス・フューエル株式会社 社外取締役／株式会社 MTG　社外取締役
社外取締役	橋本　泰	株式会社 YU-WA Creation Holdings　社外取締役／合同会社 ブリッジパートナーズ　代表社員
常勤監査役	河野　淳	
社外監査役	村井　淳也	村井法律会計事務所 弁護士、公認会計士
社外監査役	中島　敬方	

株式の状況 （2022年9月30日現在）

発行可能株式総数	32,000,000株
発行済株式総数	12,960,000株
株主数	4,612人
1単元の株式数	100株

大株主

株主名	持株数	持株比率
GULF JAPAN 1	1,797,000	13.90%
鈴木 美奈子	1,626,000	12.58%
鈴木 映子	1,626,000	12.58%
合同会社ｱﾝ・ｺｰﾎﾟﾚｰｼｮﾝ	1,237,480	9.57%
NORTHERN TRUST CO.(AVFC) RE THE HIGHCLERE INTERNATIONAL INVESTORS SMALLER COMPANIES FUND	764,800	5.92%
鈴茂器工取引先持株会	603,880	4.67%
立花証券株式会社	301,700	2.33%
岩本 庄司	200,000	1.55%
BNYM RE BNYMLB RE GPP CLIENT MONEY AND ASSETS AC	197,000	1.52%
日本ﾏｽﾀｰﾄﾗｽﾄ信託銀行株式会社（信託口）	150,000	1.16%

（注 1）持株比率は小数点以下第 3 位を四捨五入しております。
（注 2）持株比率は自己株式（32,540 株）を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4 月 1 日から翌年 3 月 31 日まで
基準日	3 月 31 日
定時株主総会	毎年 6 月
株主名簿管理人特別口座　口座管理機関	三菱 UFJ 信託銀行株式会社
同連絡先	三菱 UFJ 信託銀行株式会社　証券代行部 東京都府中市日鋼町 1-1 TEL　0120-232-711 郵送先　〒137-8081 新東京郵便局私書箱第 29 号 三菱 UFJ 信託銀行株式会社　証券代行部
上場市場	東京証券取引所（スタンダード市場）
公告方法	電子公告（https://www.suzumo.co.jp/ir/） （ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。）

●お知らせ

1. 各種お手続きに関するご注意

(1)株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人（三菱UFJ信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。

(2)配当金の口座振込のご指定につきましても、お手続きは「配当金振込指定書」を各口座管理機関を経由してお届けいただくこととなっております。振込指定のお手続きにつきましては、詳しくは各口座管理機関にお問合せください。

(3)特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎ致します。

(4)未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払い致します。

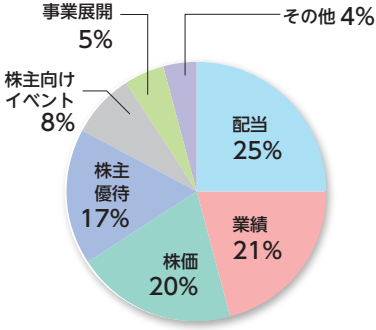
2. 中間配当金計算書について

配当金の口座振込をご指定の方と同様に、「中間配当金領収書」により配当金をお受取りになられる株主様宛にも「中間配当金計算書」を同封致しております。配当金をお受取りになった後の配当金額のご確認の資料としてご利用いただけます。

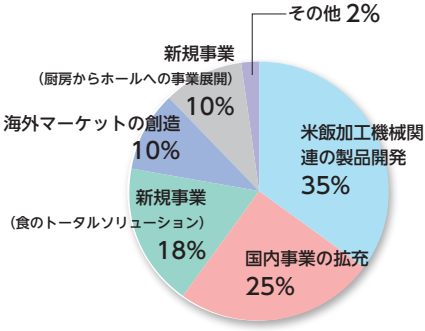
アンケートのご報告

SUZUMO REPORT(第62期期末)でご協力のお願いを致しました結果、
多くの株主の皆様にご回答をいただきました。誠にありがとうございました。
皆様の声を今後の経営に役立てるべく活用させていただきます。
以下にご回答の内容を一部抜粋にてご報告申し上げます。

今後期待するもの
(複数回答)



事業や取り組みへの関心事項
(複数回答)



SUZUMO WE LOVE RICE　鈴茂器工株式会社
東京都中野区中野4-10-1中野セントラルパークイースト　(〒164-0001)
TEL：03-3993-1371(代)
URL：https://www.suzumo.co.jp/